

被表彰候補放課後子ども教室調査票

都道府県 指定都市 中核市名	市町村名	該当 小学校区	放課後子ども 教室名	教室名 (ふりがな)	教室の概要									被表彰候補放課後子ども教室 として推薦する理由	
					開催日数		実施場所 (施設名、図書 室、グラウンド、 教室等)	スタッフの体制	立ち上げの 経緯・背景 開始時期等	活動内容(特徴的な活動内容等 含む)	学習活動		児童クラブとの連携		
					H20 年度 (実績)	H21 年度 (計画)					実施の 有無	内容及び効果等	連携の 有無		内容及び効果等
長野県	高森町	高森南小学 校 高森北小学 校	高森町ふれあい クラブ	(たかもりまちふ れあいくらぶ)	250	250	『施設名』 各小学校 『実施場所』 学校内専用ルー ム・体育館・グラ ウンド・校内遊びの 森	『コーディネーター』 ・配置人数:1名 ・計2教室を担当 『安全管理員』 ・登録人数:2名 ・配置人数:2名程度 『学習アドバイザー』 ・登録人数:2名 ・配置人数:2名程度 『ボランティア等』 ・登録人数:8名 ・配置人数:2名程度(都合があ った場合のみ)	高森町では、平成14年度 から小学校の放課後対策 として学校施設を利用し て、安全な「遊び場」を提供 し、学年の異なる子どもた ちが社会性、創造性を養う 「ふれあいスクール」を実施 している。 (「ふれあいスクール」は、 「ふれあいクラブ」と「学童ク ラブ」で構成されている。)	年間を通じて、一つの目標を 達成する活動(マフラー編みや ダンボール工作等)を行ってい る。 長期休業には、国土交通省天 竜川河川調査へ参加、また、植 物観察教室や蘭植物園での体 験教室など体験活動を行って いる。また、活動場所は、学校のプ レイルームをふれあいクラブの 専用室とし、学童クラブと共に活 動している。	実施の有無 内容及び効果等	実施の有無 内容及び効果等	連携の有無 内容及び効果等	町教育委員会として、広報活動や人材確保等について、 一体的に事業運営を行っている。また、ふれあいクラブは、 学校や児童クラブと連携をして事業を実施しているため、児 童の様子等について、事業担当者や教員との間での情報交 換がスムーズに行えている。 学校との連携は、各学 校内に各2名の担当教諭 をあき、定期的にそれぞ れのスタッフと連絡会を 実施し児童指導、安全対 策等連携している。	

高森町ふれあいスクール【長野県高森町】

～（副題例）地域の子どもは地域で育てる～

事業の目的・理念

児童が通い慣れている学校施設を活用することによって、利便性による時間の確保と空間の確保
心から遊びなどを楽しみ、学年やクラスに分け隔てなく交流し、仲間づくりや互いに理解しあえる関係を築く
児童も大人も共に生き共に育ち合う場を創造する

実施場所	学校内	学校外
開催日数	210日 / 年間	
参加人数	80人 / 1日平均	
活動の特徴	自由活動型	プログラム型
		-
学習活動の特徴	自主学習	学校と連携
		-
他事業との連携	児童クラブ	支援本部
		-

教室の実施場所

高森南小学校の体育館内専用ルーム、体育館など
高森北小学校プレイルーム、体育館など

教室の開催日

月～金曜日 14:00～16:30
夏・春の長期休業

参加対象者

高森町の南・北小学校の学区内に在住する小学生



ものづくり教室（木工体験）

申込み手続きなど

新一年生については、入学説明会の際に申込書を渡している。新2年生以降の学年については、教育委員会に直接手続きを行う。

参加料金は不要。ただし、当初に帽子代・保険料・教材費の負担をお願いしている。

活動内容

高森町の取り組み

「ふれあいスクール」は、町内2校の小学校施設を利用して、1～6年生までを対象にした「ふれあいクラブ」[放課後子ども教室(文科省)]と、1～3年生までの低学年用の「学童クラブ」[放課後児童クラブ(厚労省)]で構成され、高森町教育委員会で運営委員会を設け、学校教育係が所管し一体的に運営しています。

各学校には各2名担当教諭をおき、定期的にそれぞれのスタッフと連絡会を実施し児童指導、安全対策等連携を図っています。

「ふれあいスクール」は、原則学校の登校日(「学童クラブ」の児童は土曜日でも受け入れ)と夏・春の長期休業に開設しています。

加入方法は、年度末の指定期間内に保護者から直接申し込みを受け付け、教育委員会職員により面接を実施し、「ふれあいクラブ」

か「学童クラブ」を判断しています。

子どもの流れ

「ふれあいスクール」加入の子ども達は、授業が終了すると、クラブ毎に受付を済ませ、専用のオレンジ帽子を着用し決められた活動を行います。

コーディネーターや地域の方々などの参加

採用・募集

町の採用基準により、募集し採用しています。

配置人数(2校の延べ人数)

安全管理員：4人

学習アドバイザー：4人

コーディネーター：1人

その他ボランティア：10人

(その他)

長期休暇(夏休み・春休み)を中心に地域のボランティアの皆さんをお願いして、竹とんぼ作りや布草履作り、水生生物調査等をお願いしています。

又、保護者の皆さんも交代で参加をお願いし、親子の係わり合いの時間もお願いしています。

学校の授業終了【下校】		
一般児童	ふれあいクラブ (放課後子ども教室)	学童クラブ (放課後児童クラブ)
	体育館玄関に荷物を置き 出欠表を記入	専用ルームで 出欠表を記入
	オレンジ帽子着用 体育館・校庭 裏山の森で遊び活動 (学校校舎内へは入らない)	オレンジ帽子着用 学習、体育館・校庭 裏山の森で遊び活動 (学校校舎内へは入らない)
16:30 完全下校 帰宅	一般児童16:30(帽子返却) 完全下校 帰宅	16:30 専用ルームに集合
出席確認 おやつ時間		
専用ルーム・体育館・校庭 裏山の森で遊び活動		
18:00 保護者迎え 帰宅		



事業を実施して

異年齢の子どもたちが集まる「ふれあいスクール」の場所は、自然と年上の子どもが年下の子どもたちの面倒をみています。学校での活動とは違うたて割りの生活は、多くの社会でのルールを身につけることができ、一定の評価が望めます。

保護者からは、学校という安全面が確保された施設で運用することが、安心して子どもを預けることができると評価されています。

年々参加者が増加しており、また、学校の児童数も増えていることから、学校内での場所の確保が難しくなっています。

保護者は子どもを任せることで、自分が親としての教育をしなればいけない立場を失いつつあり、行政の過剰な家庭支援が親子のつながりを失わせる要因にもなるため、現在事業のあり方を再検討しています。